

会議の概要

令和元年度 第2回

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

兼 ○ 玉井幼稚園学校運営協議会
○ 玉井小学校学校運営協議会

日 時：令和元年6月25日（火）16:25～17:55

場 所：玉井小学校 体育館

（進行：玉井小教頭 鈴木浩記）

- 1 開会のことば （おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 大山 明美）
これから第4回コミュニティ・スクール委員会を始めます。よろしくお願いします。

- 2 教育長あいさつ （大玉村教育委員会教育長 佐藤 吉郎）

- 本日はオープンスクール後のコミュニティ・スクール委員会（以下CS委員会と略記）ということになる。オープンスクールの趣旨は、要項にもあるように、CS委員に学校の様子をご覧いただき、教育活動への理解と学校評価機能の充実を図ること。CS委員さんには先生方の分科会にも積極的に入って、研修の様子を観ていただいた。

また、玉井小の先生方には大変お疲れ様でした。これからの協議でさらに理解を深めてほしいと思う。

- （資料「2019年6月4日 内外教育 “教育長はこう考える～佐藤吉郎福島県大玉村教育長に聞く～”」をもとに）

これは、内外教育という教育を専門的に扱う機関誌であり、6月4日に取材を受けた内容であり、CSについてまとめてもらった。2ページ最後の段に「きっかけは委員会のトップを任せていた～」とあるが、実際は「お願いしていた」ということ。

- 本日、玉井小では「知」「徳」「体」をもとにテーマを決め、小グループを作っている。“学校をさらによくするために”という視点でご意見をいただきたい。

- 3 おおたま学園CS委員会会長あいさつ （おおたま学園CS委員会会長 伊藤和弥）

- 自己紹介を兼ねCSについて話したい。CS委員は5年目となるが、自分にとって勉強になっている。勉強したことを生活の中で生かせればいいなあというところで頑張っている最中である。
- 今日はCS委員の皆さんの参加が多くうれしく思います。

- 4 おおたま学園CS委員自己紹介（オープンスクールの感想を含めて）

- 今回はオープンスクール、及び玉井幼稚園・小学校の学校運営協議会ということで、玉井幼・小に特化した話し合いをすることになっている。CS委員さんの中でも参観していただいた方も何人がいらっしゃいましたが、まずは学校を見てもらって感じてもらうことが大切だと思う。時間がなく大変な中ではあるが、ぜひ学校を見てもらい年度末の学校評価に生かしてもらいたいと思っている。学校の課題を共有し、主体的に関わっていきたいと思っているので皆様よろしくお願いいたします。
- CSについて学びを深めていきたい。
- 先生方の頑張りを見せていただいた。CS委員として先生方の応援団として努力していきたい。

今回を機会に何らかの形にしていきたい。

- 先生方と子どもたちとの関係がうまくいっていると感じた。
- 体育では、子どもたちが楽しめる準備運動が取り入れられていた。授業の工夫をみせていただいた。また、子どもたちに考えさせるように声かけをしながら、運動に取り組みさせており感心した。
- 体育の指導について協議し、神経系の発達のためには、幼児期に様々な動きを体験させることが大切であると分かり、とても勉強になった。
- 子どもたちが積極的に発言をし、話し合いを進めている姿が見られてよかった。先生方のこれまでの努力の成果が表れている。
- 道徳の授業で、子どもたちの考え方がいろいろ出てきて、それらをうまく生かしていく方法が難しいと感じた。
- 算数の授業を参観した。授業の準備がしっかりなされており感心した。
- 小学校の学びの流れを中学校でも繋いでいくことが大切だと思った。
- 本日体育の授業を公開してみて…成果等を示してもらったり、ご指導をいただいたりと、やってよかったと感じた授業研究だった。子どもたちに還元していきたい。
- 本日の算数の授業を行った。オープンスクールでは2回目の授業公開であったが、いろいろとご指導いただきよかった。学んだことを子どもたちに還元していきたい。
- 道徳の授業を行った。大勢の方々に参観、そして貴重な意見をいただいたことにより、大変勉強になった。道徳は週に一度の授業しかないが、これからも大切に実施していきたい。
- 子どもたちが「ふるさと大玉村」をますます好きになるよう教育に取り組んでいきたい。
- 先生方が穏やかに児童に接し、様々な意見を引き出していた。
- 6年生の算数の授業を参観して、個々の成長がよく感じられうれしく思った。
- 子どもたちが、先生方のていねいな関わりによって、授業が展開されているのが素晴らしかった。
- 本日オープンスクールについて初体験をした。これまで授業研究や研究公開をたくさん見てきたが、学校に地域の方がこんなに入って授業を参観している様子を見て、あたたかさを感じた。授業後に、こんなに多くの方々からこんなにたくさん褒めていただき素晴らしい。

教育長退室

5 協議

(1) 本日の協議内容説明 (玉井小教頭)

- ① 下記の4つのテーマに基づき班ごとに話し合う(テーマは本校の教育目標「知・徳・体」に関わること)
- ② 話し合いの手順は、
 - ア 自分の意見や思い等を付箋に記入する。
 - イ 付箋を模造紙に貼りながら話し合う。
 - ウ 全体で共有する。

でお願いしたい。グループ協議後、(まともらなくてもいいので)どのような意見が出たかを班ごとに発表してほしい。

(2) 玉井小学校・玉井幼稚園の教育活動及び本日のテーマについて

(玉井小校長・幼稚園長 小林 雄)

- 本日は大変ありがとうございました。皆様からの感想をお聞きし、とてもうれしく思いました。それでは、本日のテーマについて簡単に説明します。

玉井幼稚園、玉井小学校「学校経営・運営ビジョン」に、本校・園の教育目標の重点目標「自ら学ぶ子(知)」、「心豊かな子ども(徳)」、「たくましい子ども(体)」がある。この中から課題や重点的に取り組んでいきたいことをテーマとして取り上げた。本日のCS委員会の要項にあるよ

うに、R（実態把握）→V（目標）→P・D（計画・実行）→C（評価）→A（改善）サイクルとしているので、それに基づいて説明する。

- A・B班の「家庭学習の定着」…家庭学習は学年毎の発達段階に合った指導を行い、家庭学習と授業の関連性を図っている。目標としては、「自ら家庭学習に取り組み習慣化できる子ども」と設定した。
- C班の「自己肯定感・自己有用感の育成」…「①自分のよいところがわかっているか。」「②友達のよいところがわかっているか。」「③お子さんのよいところがわかっているか。」という項目でアンケートを実施したところ、A～D評価のC・Dの割合が、①15.5%、②5.0% ③12.9%であった。目標として「自分のよさを理解し、自信をもって生活できる子ども」と設定した。
- D班の「郷土愛の育成」…「①大玉村の学習は好きか。」「②お子さんは地域のことに興味があるか。」の項目のアンケートでは、A評価が①64.3%、②23.0%であり、親子のギャップが大きいことが分かった。本校・園の園児・児童は、多くの地域の方々に支援いただき、関わりながら学習を充実させることができている。目標として、「ふるさとの人・もの・ことに関わって、郷土のよさや誇りを感じることができる子ども」と設定した。
- E・F班の「健康的な生活習慣の定着」…「①お子さんは、テレビやゲーム、パソコンなどを使う時間は1日2時間以内である」「②お子さんは、健康な生活をしようと心がけている」の項目のアンケートでは、C・D評価が①35.1%、②23.6%であった。健康的な生活（睡眠・朝食・運動・メディア）における共通理解が難しい家庭も見られる。目標として、「健康的な生活習慣を自己管理できる子ども」と設定した。

（３）グループ別協議（２８分間）

（４）グループ別協議の発表・共有

A班「家庭学習の定着」

- 家庭学習の内容を充実させ、子どもたちの意欲をなくさないよう意識する。
- 家庭学習チェックカードが各学年で出されているが、表記の仕方が学年によっていろいろで分かりにくい部分もあるので、ある程度統一できるとよい。
- 家庭・地域とのつながりを大切にし、連続した学びが実現できるようにする。
- 地域の中で孤立した家庭があるのが課題である。声をかけ合ったりしながら、相談し合える関係にしていく必要がある。
- 村で出している家庭学習の手引き等を活用していく。
- 地域で行っていること、例えば未来塾や放課後子ども教室等の機会を生かしていくことも大切である。



B班「家庭学習の定着」

- まずは、保護者が子ども個々の実態をとらえることが大切である。学校からの発信等を生かして、わが子が学校でどのような状況なのかを知って、指導に生かす（褒める、励ます、しかる等）ことにより学習にさらに意欲的に取り組むようになるのではないか。
- ボランティア（放課後子ども教室）の話から
集中して学びに取り組める環境づくり…最初に15分間ほど宿題に集中して取り組み、その後活

動や遊びを楽しむ等という手順も効果的である。

- 最後までやり遂げることが自信につながる。
- 親子の時間を少しでもいいので作る。(10分でも15分でもいい。宿題を見る時間等々)
→ 子どもが何ができて何ができないのかが分かる。

C班「自己肯定感・自己有用感の育成」

- 家庭・地域でできることとしては、
 - ・ 子どもにまずは任せてやらせてみる
 - ・ 地域で子どもを育てること（わが子ばかりを見ていると悪いところばかり目につくので）
 - ・ 話を聞く時間を家庭で確保できるようにすること
- 話を聞くことに関して学校・家庭で留意すること
 - ・ トラブルがあった時に、その部分を切り取って話してしまうのだが、どうしてそうなったのかをよく聞くことで子どもは心を開くのではないか。
- 子どものよい所、得意なこと、優れていること等を見つけて伸ばすことが大切で、学校としての大事な役割である。
- アンケートや相談の機会を生かす。
- グループで目標達成できる仕組みづくりを進めること。

D班「郷土愛の育成」

- 保護者に地域への関心を持ってもらう → 村内の施設やイベント等を親子で体験する
- (総合的な学習の時間や社会科等で実践する) 地域学習の中身を家庭で話題にしてもらう。
- 学校でも発信を積極的に行う。
- 地域学習を充実させるために
 - 村の大事な伝統をつなぐ人を育成する。
 - 村にとっても素晴らしい人がいることを知る。

E班「健康的な生活習慣の定着」

- メディアのことについて
 - ・ いろいろ取組はあるが、家庭との意識のズレがあることが課題
 - ・ 5歳までに決まってしまうのではないだろうか。幼い頃に身につけたものが重要である。
- 3歳児のおむつのこと
 - ・ 「そのうち取れるだろう」と思っている親や、不安、心配な気持ちを持っている親など様々いるのが現状であると考えられる。
 - ・ 幼稚園で思い切ってパンツを履かせてみて、「気持ちよかった」等の子どもの反応を家庭にも伝えるなどして、一緒に取り組んでいくことが大切。
- 食事（特に朝食）について
 - ・ 「送りの車の中で食べてくる」ということもあるらしい。メニューは凝らずとも、ご飯と具たくさんの味噌汁だけでもよいのではないだろうか。



F班「健康的な生活習慣の定着」

- 基本的な生活習慣の大切さについて

- ・ 幼稚園、小学生のころから繰り返し働きかけていくしかない。
- メディアについて
 - ・ メディアの悪影響について家庭に伝え、新たな手立てを講じ行くようにすることが大切。
- 「健康的な」という部分
 - ・ 家に帰ってから外で遊ぶ機会の減少
安心して活動できる場所を情報として提示するようにする。
 - ・ 保護者の意識改革
幼稚園や学校に任せきりにせず、連携を図りながら子どもを育てていけるようにする。親の努力・工夫を賞賛するなど、親を育てていくことも大切。
 - ・ 親子の関わりの増加が子どもの情緒の安定につながる。(手伝い、ふれ合いの時間等)



6 講評 (おおたま学園CS委員会会長)

- 幼・小・中・高と学校の授業参観に参加する親は減少していく傾向にある。意識を高める必要性を感じる。
- 保護者も、年齢や課題別に勉強していくことによって、変わっていくのではないかと思います。我がCS委員会も、保護者と教え合ったり、励まし合ったりするような「学びの場」を持つようにすればよいのではないかと考える。
今日は、本当にお疲れ様でした。

7 御礼のことば (玉井小校長・幼稚園長)

- 本日はお忙しい中ご出席いただきありがとうございました。地域の方の視点から様々なご意見をいただき、とても参考になりました。今後の学校経営(ex.子どものよさを認め励ます教育)に生かしていきたいと思います。

8 閉会のことば (おおたま学園CS委員会副会長 吉田 都)

以上をもちましてCS委員会を終わります。お疲れ様でした。